



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

広報誌

# 日赤あいち

No. 139  
2019.夏



## 5月赤十字運動月間

～県内各地でイベント・キャンペーンを開催～

- 伊勢湾台風から60年～赤十字の活動を振り返る～
- 平成30年度決算概要
- 愛知県赤十字血液センター（瀬戸）土曜日の献血受付再開
- クロスサポーターに聞く!! 名古屋グランパスエイト

ご参加・  
ご協力いただいた  
皆さま、ありがとう  
ございました!



## クロスサポーターに聞く!!

日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業、団体、人物を紹介します。

No. 28

株式会社名古屋グランパスエイト  
広報コミュニケーション部ホームタウングループ担当

佐藤 剛史さん

活動内容  
愛知県をホームタウンとするプロサッカー  
クラブ。2011年に赤十字とパートナーシッ  
プ協定を締結し、赤十字活動の理解促進を  
目指して共に取り組む。  
<http://nagoya-grampus.jp/>



地域の代表として  
取り組む赤十字活動

地域の皆と一緒に  
課題解決の輪を広げる存在に



「J」のプロサッカークラブ名古屋ランパスが赤十字とパートナーシップ協定を締結してから9年。この間に多くの災害が発生し、その度に選手が試合前後に義援金への協力を、時には自らが募金箱を持ってサポーターへ呼びかけてきました。

災害時だけではなく、赤十字病院の小児病棟を訪れ、普段なかなかスタジアムに足を運ぶことができない子どもたちを訪ねて勇気づけるといった活動も続けています。

プロサッカークラブが積極的に赤十字活動に協力する背景には、地域の代表として社会の役に立つ存在になりたい、というクラブとしての想いがあるとのこと。

「社会『貢献』というよりも、社会『連携』を進めていきたい」と佐藤さん。

特に東日本大震災以降、クラブとしても、自分たちの存在価値は何だろうと考えた時期があったそうです。その答えの一つとして、単なるサッカークラブ



温かい声援を受けながら、東日本大震災の義援金を呼びかける藤井陽也選手(左)と渡邊将斗選手(右)

「地域の社会課題を解決しようとしている赤十字社とパートナーシップを結ぶことは大きな意義がある」と佐藤さん。「ランパスはプロサッカークラブだけれども、地域の生活に届けたい『文化』の一つとなることを目指しています。そんなランパスが、行政や学校、企業や地域のボランティアの方と一緒に、活動の輪を広げられたら嬉しい」と熱い想いを話されました。



### 活動資金

#### ご協力ありがとうございます

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

日本赤十字社愛知県支部へ、活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- 株式会社不二機販 様
- 株式会社ミニミニLINK 様
- 三協化成産業株式会社 様
- 株式会社ミニミニグループ 様
- 株式会社メディアボックス 様
- 株式会社折兼 様
- 江口光株式会社 様

郵便振替口座／00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部

郵便局備え付けの払込取扱票でお手続きください。ご不明な点は日本赤十字社愛知県支部事務局 総務企画部赤十字会員課まで。

TEL 052-971-1596 (直通)



日本赤十字社 愛知県支部  
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50 TEL 052-971-1591 (代表)  
発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和元年7月1日



活動の詳細や最新情報は  
ウェブサイトかツイッターへ

日赤愛知  
[www.aichi.jrc.or.jp](http://www.aichi.jrc.or.jp)



### PRESENT プレゼント

10  
名様に

防災用ロゴ入りマルチライト  
災害時だけでなく  
アウトドアにも大活躍!



応募先

MAIL [aichi-koho@aichi.jrc.or.jp](mailto:aichi-koho@aichi.jrc.or.jp)

FAX 052-971-1586

〒 郵送 〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50 日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

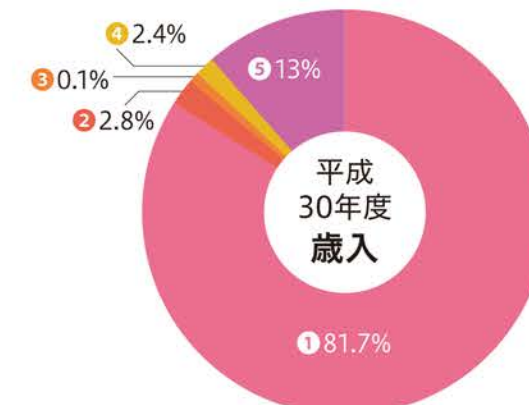
【明記事項】

- ①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤『日赤あいち』の入手先 ⑥ご意見・ご感想など 締切/8月31日必着

## 平成30年度 愛知県支部歳入歳出決算概要

平成30年度、愛知県支部では個人・法人の皆さまからいただいた会費(社費)や寄付金を主な財源として、災害救護をはじめとした人道支援活動を実施いたしました。

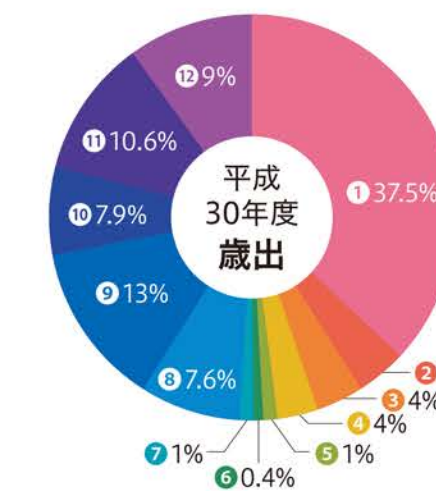
### 歳入 14億646万6,367円



内訳

1 社資収入	11億4,970万466円(81.7%)
2 委託金・補助金及び交付金収入	4,002万4,621円(2.8%)
3 資金繰入金	181万1,480円(0.1%)
4 資産収入・雑収入	3,319万9,555円(2.4%)
5 前年度繰越金	1億8,173万245円(13%)
計	14億646万6,367円 (100.0%)

### 歳出 12億2,497万2,577円



内訳

1 災害救護事業と救護看護師の養成に	4億5,962万9,222円(37.5%)
2 救急法や健康生活支援講習などの普及に	4,610万5,955円(4%)
3 赤十字ボランティアの活動と育成に	4,909万6,987円(4%)
4 青少年赤十字の育成と普及に	4,443万7,096円(4%)
5 社会福祉事業などに	1,021万9,263円(1%)
6 血液事業の普及啓発に	434万3,887円(0.4%)
7 国際的な活動に	1,117万2,254円(1%)
8 広報・活動資金募集のために	9,405万9,269円(7.6%)
9 赤十字病院救急医療体制の整備に	1億6,223万3,903円(13%)
10 市町村における赤十字活動に	9,701万5,013円(7.9%)
11 全国的な赤十字活動に	1億3,038万1,407円(10.6%)
12 支部の運営に	1億1,627万8,321円(9%)
計	12億2,497万2,577円(100.0%)

※歳入歳出差引額1億8,149万3,790円は翌年度の継続事業のために繰り越されました

### PICK UP



#### 1 災害救護事業・救護看護師の養成に

7月豪雨災害では、広島県呉市へ医療救護班等を派遣し被災者を支援。今後の災害への備えとして、訓練・研修や救護用資機材の整備等を実施しました。



#### 2 救急法や健康生活支援講習などの普及に

災害時だけでなく、日頃のけがや事故への備えとして、救急法等各種講習を実施し、57,333人が受講しました。



#### 3 赤十字ボランティアの活動と育成に

地域に密着した赤十字活動を展開できるよう、奉仕団員から養成された救急法等講習指導員による講習会を開催。また、多文化共生社会の実現に向け、外国人対象の講習や外国人救急法指導員による母国語での講習を実施しました。



#### 4 青少年赤十字育成と普及に

子どもたちの健全育成を目的とし、学校・地域で活動できるリーダーの育成や国際交流などを実施。また、子どもたちの災害対応力向上のため、防災教材を活用した防災教育支援を実施しました。

※事業報告の詳細については、日本赤十字社愛知県支部のホームページでご覧いただけます



## 赤十字運動月間キャンペーンin2019

日本赤十字社の取り組みを  
より身近に

5月1日は日本赤十字社の前身である「博愛社」が創設された日であり、5月8日は国際赤十字の創始者であるアンリー・デュナン生誕の日。こうした経緯から、日赤は毎年5月を「赤十字運動月間」として、赤十字の理念や活動へ

のご理解とご協力を呼びかけるキャンペーンを展開しています。

今年も県内各地で赤十字奉仕団による街頭キャンペーンや、放送各局のご協力による赤十字のテレビ・ラジオCM放送を行いました。

また、5月8日の世界赤十字デーには、全国各地のランドマークに赤十字のシンボルカラーである赤い光を灯す「レ

ッドライトアッププロジェクト2019」を実施。愛知県支部ではオアシス21をライトアップするとともに、アーティスト左右田薫さんにご協力いただき、来場者参加型の「ライブペインティング」を行うなど、赤十字を身近に感じていただくためのイベントを開催しました。

また、5月8日の世界赤十字デーには、全国各地のランドマークに赤十字のシンボルカラーである赤い光を灯す「レ



左／赤十字奉仕団による街頭キャンペーン 中／東山動植物園でもキャンペーンを開催 右／ライブペインティングの完成作品は支部へ寄贈されました

## 名古屋市科学館特別展「血液ツアーズ『人体大解明の旅』」コラボキャンペーン

血液・献血の大切さを  
展示に合わせて啓発

愛知県赤十字血液センターでは、名古屋市科学館で6月2日まで開催されていた特別展「血液ツアーズ『人体大解明の旅』」を観覧し、愛知県内の献血ルームで献血にご協力してくださった方に、記念品をプレゼントいたしました。

特別展「人体大解明の旅」は、から



左／写真提供：特別展「血液ツアーズ『人体大解明の旅』」中・右／特別展を観覧し、献血にご協力いただいた皆様

だの中を流れる血液とともに旅をして人体の各部のしくみやはたらきを解説し、子どもから大人まで「人体」について楽しく学び、体験もできる展覧会です

(現在は終了しています)。

特別展で楽しく学び、献血に協力いただくことで、血液や献血の大切さをより感じられる催しになりました。

## 愛知県赤十字血液センター(瀬戸)土曜日の献血受付を4年ぶりに再開

緑いっぱい、駐車場も広い瀬戸で  
献血のご協力を

愛知県赤十字血液センター(瀬戸)では、医療需要の増加に伴い、令和元年6月1日(土)から毎週土曜日(祝日の場合を除く)の献血受付を再開することとなりました。

今後とも献血へのご理解ご協力を願っています。

## 受付時間

【成分献血】9:00～11:00/13:00～16:00

【400/200mL献血】9:00～12:00/13:00～16:45

定休日:日曜日、祝日、12/29～1/3



詳しくは愛知県赤十字血液センターHPへ



1/町一帯が浸水の被害に 2、3、4/赤十字による救護活動 5/大型車両による救護所を展開 6/被災地に救護所を設置 7/救護物資を運ぶ学生ボランティア 8/全国から救護物資が届いた 9/家財道具を運ぶ一家 10/大量のヘドロをかき出す人々

写真パネル「1959 年伊勢湾台風～写真で見る日本赤十字社の活動～」を  
県内各地で展示します

伊勢湾台風から60年という節目の年に合わせ、愛知県支部では伊勢湾台風における赤十字の活動について、写真を通して振り返る展示用パネルを製作しました。パネル展示は県内各施設で予定しています。詳しい開催日程は、日本赤十字社愛知県支部公式サイトをご覧ください。



## 台風などの大雨災害から命を守るには

早めに安全な場所へ避難することが  
最も重要です！

## 日頃の備え

自治体などが作成するハザードマップを確認し、危険箇所や避難場所など住んでいる地域をよく知っておく。

※ハザードマップを確認したら、実際にマップと照らし合わせながら、自分の住む街を歩いて回ることが大切です！



そのために  
できることは？

## 大雨予報時

最新の防災気象情報(気象庁が発表する気象に関する情報や各自治体が発表する避難に関する情報)を収集する。

## 詳しい内容はコチラ



赤十字防災セミナー小冊子「災害への備え」にリンクしています

伊勢湾台風から60年  
～赤十字の活動を振り返る～

1959年9月26日、日本の台風史上最大の惨禍をもたらした伊勢湾台風から、今年で60年を迎えます。全国で5千人を超える犠牲者を出し、愛知県では県民の約2割が被災しました。特に高潮による浸水被害が甚大で、地域によっては浸水の解消まで3カ月を要し、多くの住民が長期間の避難生活を余儀なくされました。

日本赤十字社は、災害発生直後から救護班の派遣を開始し、各地で救護活動を展開。また、全国各地で赤十字ボランティアが義援金の募集や救護物資の輸送などの支援を行ったという記録も残っています。

今号では愛知県支部に残る当時の写真と、伊勢湾台風を体験された方のインタビューを通して、伊勢湾台風と赤十字の活動を振り返ります。

伊勢湾台風の被害は  
その後の生活にも影響

## 台

風は夜中によってきました。丸太の門が、強風で大きくしなるので家中を見回りにしていると、土間からじわじわと水が入ってきたのです。水位がどんどんと増す中、荷物を二階へ上げましたが、どこまで水が来るかわからず怖かったです。もし中二階まで水が来たら、そのときは屋根を破らなければ逃げられないと思いました。

結果的に浸水は一階床上の腰あたりで止まりましたが、庄内川からの水で近所は皆浸水しました。堤防決壊箇所の近くは被害がひどく、近所の神社には遺体流れ着きました。特に新川沿いは亡くなった方が多かったようです。

自宅の水は1カ月半も引かず、中二階で生活しました。就寝時も絶えず水音が聞こえ、慣れるまでは恐ろしかったです。排泄は一階部分の水に垂れ流すほかありませんでした。仕事場はずぐ水が引いたため水田用の船で仕事に通いました。水が引いた後の町には大量のヘドロが残りました。片づけに苦労した上、感染

## 伊勢湾台風体験談

当時、名古屋市港区の十一屋町で被災し、1カ月半の水上生活を余儀なくされた近藤さん。当時の様子を中心に、伊勢湾台風についてお話を伺いました。

症予防のため消毒も必要でした。家屋の土壁は竹格子を残して落ちてしまい、また水田は塩害で2、3年は米ができませんでした。

子ども世代と共に  
地域の防災意識を育む

大きな被害があった地域だからといって、概に住民の防災意識が高いとは感じません。そんな中、地域としては将来起こりうる災害に備え、防災訓練に子ども世代を巻き込むことを意識しています。子どもが参加することで、親や祖父母世代の参加を促すとともに、子どものころから防災意識を育んでいければと考えています。



日本赤十字社愛知県支部 評議員  
名古屋市港区  
区政協委員協議会議長  
近藤良昭さん